
暗闇の中へ

宝玉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

暗闇の中へ

【著者】

ZZマーク

N13360D

【作者名】

宝玉

【あらすじ】

これは、遊戯王のオープニングテーマのOVERLAPのかしをもとにしました。（微妙に）

暗闇でさまよっているオレ。遠くの方に光が見える。眩い光だ。この静寂の中でもあの光は眩いながらも必死にここまで届いている。そう思った時、地面が揺らいだ。地面が割れて、オレはその隙間に落ちそうになつたが、必死に捕まつた。

「相棒、助けてくれ！」

オレは叫んだ。だが、もちろん、相棒がこの近くにいることはまず無い。叫んでも無駄だということはわかつていた。もう一度、もう一度だけでいいんだ。最後に相棒の顔を見たかつた。

「もう一人のボク？」

相棒の声が聞こえた気がした。空耳なのか？ 遠くの方で声が聞こえた気がしたんだ。思えば、KCグランプリがあつたり、デュエリストキングダムがあつたり。最後にオレの記憶の中に入つたりもした。

「もう一人のボク！ 今助けるよ

相・・・棒？ 来てくれたのか？ でもオレは、ここにいるべき人間では無いんだ。オレは魂の眠る場所を探していたのだった。もう、瞬きすら出来ない。手にも力が入らなくなつていた。お前は光、オレは影。決して交わらない。

じゃあな、相棒。城之内君たちによろしくな！

オレは暗闇に落ちていった。

「もう一人のボク〜！」

「じゃあな、相棒」

オレにはもう何も無い。オレは存在してはいけない人間なのだから。相棒は強い。だからオレがいなくても生きていける。なのに、それだとオレが悲しいからな。何日かに一回は見に行く。それまで待つてろよ。相棒！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1360d/>

暗闇の中へ

2010年10月28日07時23分発行